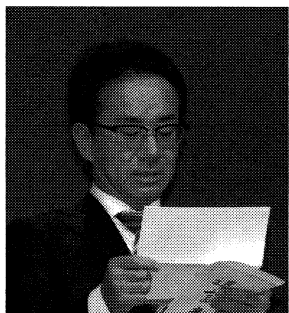


相続診断協会 「笑顔相続の日」にシンポジウム

「思い」残す大切さを伝える

エンディングノート書くきつかけに

相続診断協会は、同協会の設立日である12月1日を「笑顔相続の日」とし、同日、東京都千代田区の日本教育会館で「第1回 思いを残す文化を創る」笑顔相続の日」相続診断士から学ぶシンポジウム」を開いた。同協会は1件でも多くの「争族」を減らし、「笑顔相続」を広げるために相続診断士資格を通じた活動を展開しており、今年で創立4周年を迎えた。今回のシンポジウムでは、相続診断士の活動事例を紹介するパネルディスカッション、桂ひな太郎師匠による笑顔相続落語、相続診断士チェックシート活用セミナーなどを行い、来場者に後世に「思い」を残す大切さを感じてもらおうとともに、大切な人々への「思い」をエンディングノートに書くきつかけとした。



遺言書を朗読する 小川氏

開会に当たって 読。「これまでの私の人生はたくさんの方々に助けていただき、充実したの「思い」をつづ 幸せなものだった」と 遺言書を朗 読し、家族、恩師、税理士事務所で共 働く人々、相続診断協会事務局のスタッフ、相続診断士の資格取得者などに感謝の言葉を述べた。また、追伸として「遺言書は書いたが、まだまだ元気に全力で前進するの で、今後ともご指導をたまわりたい」と意欲を示した。

資格取得者が意見交換した

「思い」を残す大切さを伝える エンディングノート書くきつかけに

えて資格を取得した」と述べた。

柿沼氏は「相続診断士向けセミナーを開き、相続診断士と気軽にコンタクトを取れる関係づくりを進めている。また、『マンガで相続ブログ』で分かりやすく相続について解説している」と活動内容を紹介した他、「相続を本気でやる覚悟を持つことが相続診断士には必要」と指摘した。

川口氏は「生保営業の現場で多くの顧客の声を聞いた結果、相続のことであれば、何でも相談できる窓口の必要性を実感したため、生保会社を退職し、2013年11月に

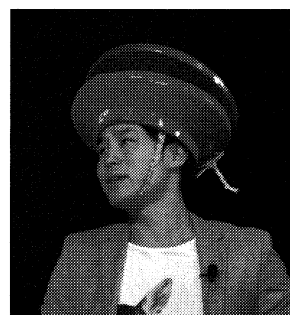
全国初の相続診断士事務所を立ち上げた。多くの人が相続に関する悩みを抱え、誰かに相談したいと考えている。相続診断士は社会に求められている」との考えを示した。

佐藤氏は「目に見えない生保商品を販売する際には、顧客が加入根拠を持つことが必要になる。加入根拠の説明には相続の話題が不可欠だ。相続診断士の立ち位置を顧客

「思い」を聞くことができてきたように感じた」と説明した。



笑顔相続落語を披露するひな太郎師匠



資格取得を宣言した 前田けいさん

に理解してもらったことが重要。資格取得後、既契約者の資産背景や「思い」を聞くことができてきたようになった」と説明した。

一橋氏は「女性の相続診断士、あるいは相続に

第2部の笑顔相続落語 「天国からのラブレター」は、生前に相続を準備することの大切さを周知することを目的に落語家の桂ひな太郎師匠と相続診断協会が創作したもので、事故で亡くなった父親の山田元三(二

第3部の「相続診断チ

第4部は特別ゲスト

の110番の伊藤美江氏、税理士法人HOPの高橋大祐税理士、相続診断協会の山本次郎事務局長がチェックシート導入の背景や、活用方法などについて意見交換した。

チェックシートのメリットとして、「短時間で相談のポイントなどを明確化できる」「潜在的ニーズを捉えやすい」「相談者自身が客観的に問題を見つめることができるといった考えが示された。

第3部の「相続診断チ

第4部は特別ゲスト

第5部は特別ゲスト

第6部は特別ゲスト

第7部は特別ゲスト

第8部は特別ゲスト

の110番の伊藤美江氏、税理士法人HOPの高橋大祐税理士、相続診断協会の山本次郎事務局長がチェックシート導入の背景や、活用方法などについて意見交換した。

チェックシートのメリットとして、「短時間で相談のポイントなどを明確化できる」「潜在的ニーズを捉えやすい」「相談者自身が客観的に問題を見つめることができるといった考えが示された。

第3部の「相続診断チ

第4部は特別ゲスト

第5部は特別ゲスト

第6部は特別ゲスト

第7部は特別ゲスト

第8部は特別ゲスト